

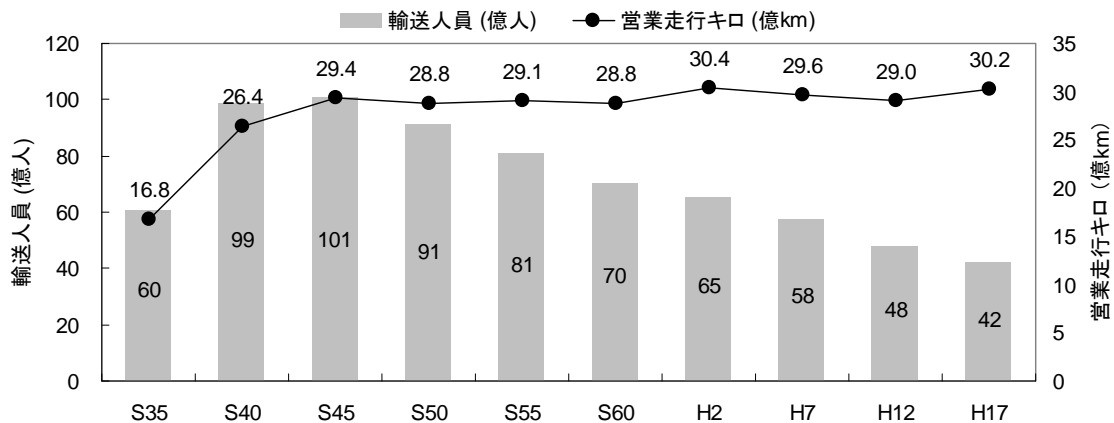
バス交通の現状について

全国のバス交通の状況

全国のバス利用者数は、モータリゼーションの進展等により、昭和40年代をピークとして減少を続け、現在はピーク時の約4割という状況であり、バス事業者の約7割が赤字を計上している。

平成14年に道路運送法が改正され、バス事業の規制緩和が進み、新規参入が容易となった一方で、路線の休廃止が許可制から事前届出制となり、不採算路線の休廃止手続きが容易となった。全国的にもバス路線の休廃止対策や生活交通の維持・確保が課題となっている。

◇ 全国の乗合バスによる輸送人員



(出典：国土交通省統計情報)

◇ 全国の乗合バス事業者の収支状況（平成21年度）

	バス事業全体の損益 (億円)			事業者数		
	収入	支出	損益	黒字	赤字	計
民営	5,558	5,842	△284	66	154	220
公営	1,622	1,901	△279	2	24	26
計	7,180	7,743	△563	68 (27.6%)	178 (72.4%)	246 (100%)

※ 保有車両30両以上の事業者を対象とし、高速バス、定期観光バス及び限定バスを除く。

(出典：国土交通省発表資料)

【参考】 西日本鉄道株式会社 自動車事業（グループ会社を除く）の状況 (単位：百万円)

	営業収益	営業費	営業利益
平成17年度	39,515	41,251	△1,736
平成18年度	39,567	40,883	△1,316
平成19年度	39,644	42,025	△2,381
平成20年度	40,047	42,747	△2,700
平成21年度	36,967	40,372	△3,404

(出典：西日本鉄道(株)発表資料)

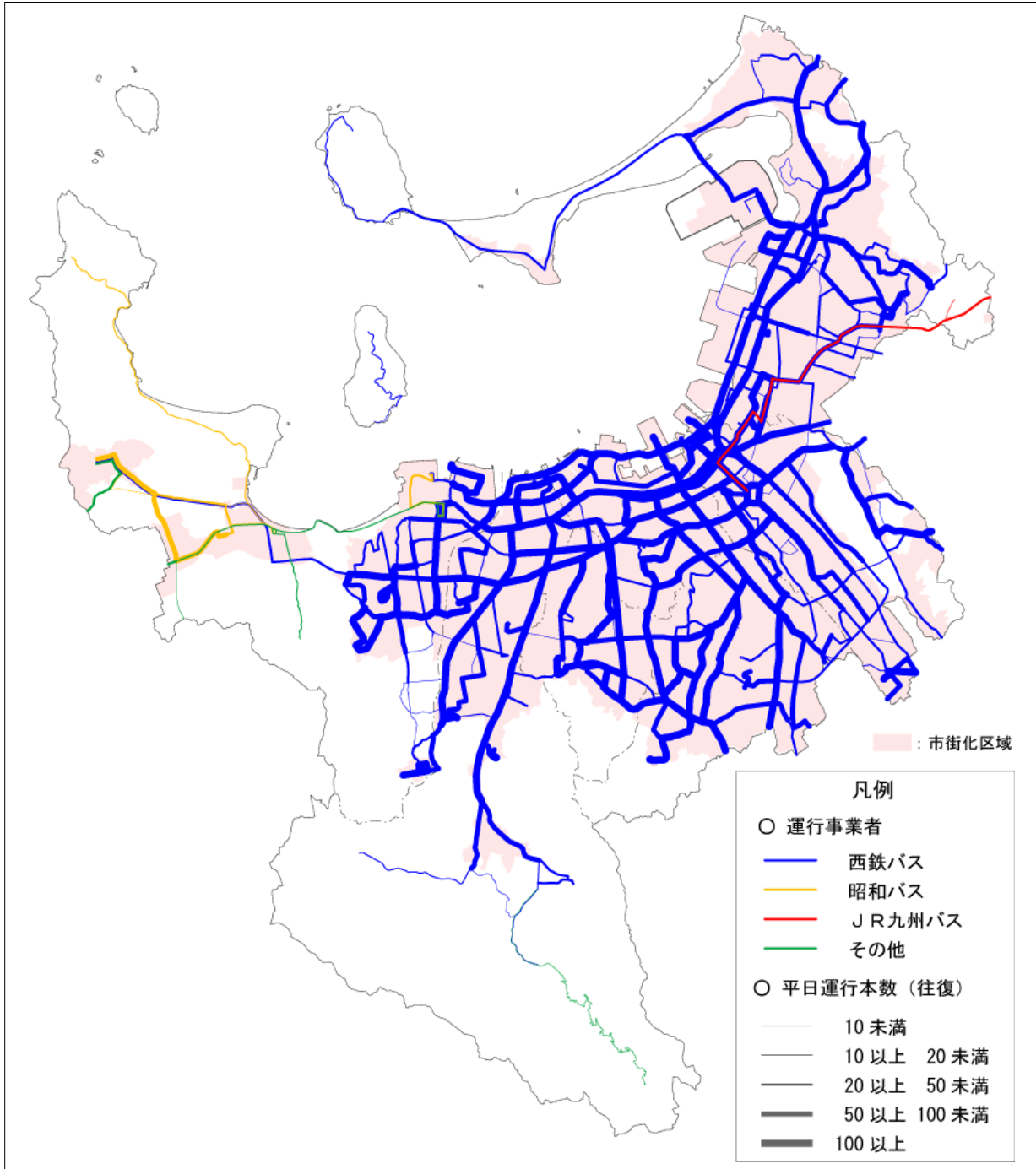
本市のバス交通の現状

1) バス路線網

市内においては、西鉄バス、昭和バス、J R九州バス等が運行しており、幹線道路の整備とあわせ、市内ほぼ全域をカバーするバスネットワークが形成されている。

◇ 市内バス路線の運行本数

(平成22年7月現在)



(出典：各社バス時刻表)

2) 利便性向上策

公共交通の利用促進を目的としたバスの利便性向上策として、様々な取り組みが行われている。特に、市内のほぼ全域をカバーする西鉄バスにおいては、全国的にも先進的である多様なサービスの提供が行われている。

◇ 主なバス利便性向上策

バス専用・優先レーン	33区間	86.2km
公共交通車両優先システム(PTPS)	4区間	19.8km

◇ 西鉄バスの近年の主な営業施策

平成11年7月	福岡都心100円バス試行	(平成12年4月本格実施)
平成12年8月	バス乗り継ぎ運賃割引開始	
平成12年9月	グランドパス65販売開始	
平成15年3月	エコルカード販売開始	
平成18年4月	にしてつバスナビ福岡都市圏全路線導入完了	
平成20年5月	ICカード「nimoca(ニモカ)」導入開始	

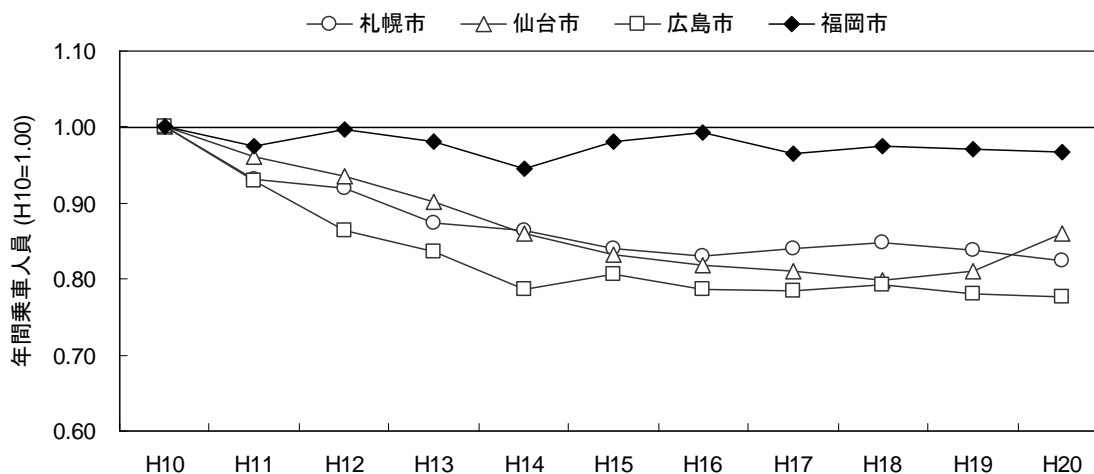
◇ ICカード利用サービスの拡大

平成22年2月	昭和バス(福岡・前原地区)でのnimoca利用サービス開始
平成22年3月	ICカード相互利用サービス開始 nimoca(西鉄)・SUGOCA(JR九州)・はやかけん(福岡市交通局)・suica(JR東日本)

3) バスの利用状況

バスの利用については、他都市ではバス乗車人員は減少しているのに対し、本市においては多様なサービスの提供等により、ほぼ横ばいで踏みとどまっている。

◇ 地方中枢都市におけるバス乗車人員の推移



(出典：各都市統計書)